

# 乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.82

2021.3

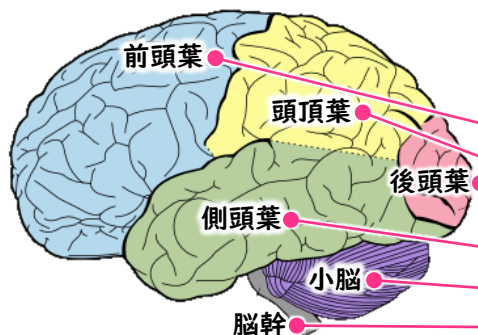
## 乳がんの脳転移とは？



乳がん細胞の塊が脳に発生することです。乳がんが見つかった時点で存在することもあるれば、乳がんの初期治療を終えて何年か経過して発生することもあります。

脳転移の頻度は遠隔転移を有する患者さんの6～17%とされています。

### ＜転移部位＞



### ■ どのような症状が見られますか？

脳は体を動かす指令を出す臓器なので、転移巣が現れた場所によって症状が異なります。

#### ＜症状の一例＞

手足の麻痺、認知機能低下、記憶力低下、てんかん発作、性格変化

感覚障害、計算できない、空間失認

視野障害

言語理解困難、半盲、幻臭

めまい、ふらつき、呂律困難

物が二重に見える、顔面神経麻痺、嚥下障害、聴力障害

また、脳腫瘍によって頭の中の圧が高まると、頭痛や吐き気、意識障害が見られます。

### ■ どのような治療が行われますか？

脳転移を含め、遠隔転移を有する乳がんに対する治療の基本は薬物治療です。根治は難しく、症状緩和や生活の質を保ちながら治療を行います。ただ、脳転移は他臓器転移と比べて抗がん剤の効果が低いとされており、主に放射線治療が用いられます。病巣が一つで切除可能な部位に存在する場合は手術も考慮されます。脳のむくみを抑えるため、ステロイドやグリセオールなどの薬を用いることもあります。

### ■ 放射線治療の種類

大きく分けて、①脳全体に放射線を当てる全脳照射と、②病巣のみにあてる定位放射線照射の2通りがあります。

	対象	方法	副作用
全脳照射	多発例（10個を超える）	1回あたり2～4グレイ（線量の単位）を5～20回かけて照射。	だるさ、むかつき 頭皮の炎症、脱毛 認知機能低下、脳壊死
定位放射線照射	・少数（2～4個）で小さな腫瘍（<3cm） ・5～10個でも、全腫瘍体積が小さい場合	高線量を1～5回にかけて照射。	照射野に一致した脳壊死

どのような治療を行うかは、患者さんの予後や全身状態なども考慮して、放射線科や脳外科も含めたチームで方針を決定しています。